

チェックリスト

デジタルアクセラレーションに伴う セキュリティコストを最適化するための 6つの重要な検討事項

現在のみならず未来の顧客や組織のニーズに応えられるよう、企業がアプリケーションおよびクラウドジャーニーのモダナイズに取り組むなか、デジタルアクセラレーションは変革のプロセスとして常に進化し続けています。デジタルアクセラレーションの取り組みを保護するには、展開方法や利用方法、セキュリティ要件の進化にも対応する必要があります。このように進化し続けるニーズに、デジタルアクセラレーションに求められるスピードで対応できるよう、業務運営方法を変え、投資規模を適正化することも欠かせません。必要なのは、可能なかぎり従量課金型のセキュリティライセンスプログラムを導入することです。

ここでは、デジタルアクセラレーションの進化に合わせて業務運営方法をモダナイズしようとしている企業向けに、セキュリティソリューションの従量課金型ライセンスプログラムの選択時に検討すべき6つの重要な機能を挙げています。

そのソリューションで、展開サイズを正確に判定できますか？

デジタルアクセラレーションに着手したものの、自社にどのようなセキュリティソリューションが必要なのか、数量やサイズ、容量を判断する段階で膠着し、プロジェクトに遅れが生じることはよくあります。

多くの企業はデジタルアクセラレーションを展開し、保護し、運用化して初めて、何が本当に必要かを理解します。柔軟な従量課金型ライセンスプログラムを利用すれば、必要に応じてソリューションやサービスのサイズやスケールをダイナミックに変更できます。

**そのソリューションは、柔軟に拡張・縮小
(スケールアップ / スケールダウン、スケールイン / スケールアウト) できますか？**

「スケール」というと垂直方向に拡張することだと思われがちです。最適な従量課金型ライセンスプログラムでは、垂直 / 水平の両方向に拡張・縮小できるべきです。スケールアップ / スケールダウンはシステムのサイズを大きく、または小さくすることを意味します。一方、スケールイン / スケールアウトはソリューションのインスタンス数を水平方向に増減することを意味します。

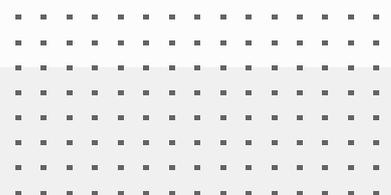
そのソリューションで、展開の遅れを減らすことができますか？

Infrastructure-as-Code (IaC) の実装、顧客が求める新サービスを提供するための急拡大など、デジタルアクセラレーションプロジェクトを急速に進めている企業では、調達の遅れが大きな悪影響を及ぼす恐れがあります。

そこで検討すべきは、複数のサービスを簡単に使用できるようなプログラムです。クレジットベースの単一システムがあれば、まとまったポイントをあらかじめ取得しておき、必要に応じて消費したり追加したりすることで、迅速なプロビジョニングが可能です。

そのソリューションには、ライセンスのライフサイクル管理を自動化できる API がありますか？

特に DevOps または IaC 環境などのように迅速な立ち上げと解体が必要な状況で大規模なデジタルアクセラレーションを推進するには、自動化が必須です。最適な従量課金型ライセンスソリューションでは、手動および API ベースでライセンスのライフサイクル管理を行い、プロビジョニングされたライセンスやポイント残高を一元的に把握することが可能であるため、効率と管理性が向上します。



☑ そのソリューションで、クラウドサービスプロバイダーに確約した最小使用量を守ることができますか？

多くの企業は、単価交渉をより有利に進めるために、AWS や Google Cloud などのクラウドプロバイダーに最小使用量や最小支払額を確約します。しかし、このように確約した最小使用量を毎年守ることは負担にもなります。最適な従量課金型ソリューションでは、確約した使用量や支払額を消費できると同時に、アプリケーションが存在するあらゆる場所にセキュリティを柔軟に展開できます。

☑ そのソリューションは、仮想環境とハードウェア展開の両方に対応できますか？

最適な従量課金型ソリューションは、クラウドかオンプレミスかを問わず、必要な場所にいつでも展開できるセキュリティソリューションの幅を拡大し、柔軟性を最大限に高めます。ガートナーは先頃、新しい概念として「ハイブリッドメッシュファイアウォール」(HMF) を挙げました。HMF は、エンタープライズ IT の複数の領域 (ブランチ、キャンパス、データセンターなどの企業サイト、パブリッククラウドおよびプライベートクラウド、リモートワーカーなど) を協調的に保護する統合セキュリティプラットフォームとして展開すべきです。HMF のさまざまなユースケースにわたって多くの展開環境や必要なサービスに対応できる従量課金型の単一ソリューションは、企業に最大限の柔軟性、利便性、シンプルさをもたらします。

フォーティネットは柔軟性に優れた従量課金型セキュリティを通じてデジタルアクセラレーションを支援します

フォーティネットの FortiFlex を利用すれば、デジタルアクセラレーションのあらゆる取り組みに合わせて、クラウド、ハイブリッドクラウド、HMF 環境を保護するサービスの規模とそのコストを柔軟かつダイナミックに適正化できます。この柔軟性に優れた従量課金型ライセンスプログラムは幅広いソリューションおよびサービスに対応しており、デジタルアクセラレーションの取り組みに合わせて自由自在な拡張・縮小と保護が可能です。必要に応じてダイナミックに調整できるため、無駄な調達サイクルを経る必要はありません。サブスクリプション期間終了時点での未使用ポイントは更新時に翌年に繰り越しできるため、従来の期間ライセンスと違って投資価値が失われることはありません。ライセンスのプロビジョニングを自動化できる強力な API もあり、デジタルアクセラレーションのスピードに合わせた展開が可能です。

FORTINET

フォーティネットジャパン合同会社

〒106-0032

東京都港区六本木7-7-7 Tri-Seven Roppongi 9 階

www.fortinet.com/jp/contact

お問い合わせ